

2022年度（対象年度：2021）自己点検・評価シート

基準3 教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「3つの方針検証委員会」において継続的な見直しをする。
301①	「3つの方針検証委員会」を基軸とした教学マネジメント体制を整備する。

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》	*各項目に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。
なし	

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題
なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の教育理念・目的と学部(学科または課程)構成及び研究科(研究科または専攻)構成との適合性 ②教育組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学部、研究科の設置に際しては、「建学の精神」の具現化と「龍谷大学の教育理念・目的」[301a]との適合という観点に基づき、設置の必要性について審議が重ねられ、最終的に評議会承認する体制をとっている。また、「建学の精神」と「龍谷大学の教育理念・目的」に基づいて、各学部、研究科の理念・目的が策定され、それらは「龍谷大学学則」「龍谷大学大学院学則」に定められている [301b]。 教育組織の編成は、「龍谷大学の教育理念・目的」と学部・研究科の教育理念・目的の連関性を明示した「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」[301c]、「学生支援の方針」（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キ

キャリア支援の方針)」[301d]、「教育研究等環境の整備に関する方針」[301e]に基づき行われている。

なお、「3つの方針一体的見直し作業部会」(2019年度からは「3つの方針検証委員会」)において、3つの方針を軸とする教育の質保証の仕組みを整備することについて検討を行い、2019年度入学生より「学位授与の方針」(DP)及び「教育課程編成・実施の方針」(CP)を適用したことに加えて、これらのDP及びCPとの整合が取れるよう、「入学者受入れの方針」(AP)の見直しを実施した。

2021年度においても「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」について、全学的見地からの確認及び一部修正等を行った。

301② 学部、研究科では、全学教学政策会議、大学院教学会議、教学会議、教養教育会議、学修支援・教育開発センター会議、入試委員会、全学グローバル教育推進会議、全学キャリア会議等に委員を選出し、それら会議を通じて、学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等についての全学的課題に対する審議や認識の共有等を図っている。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの

301①	「龍谷大学の教育理念・目的」、「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」等の策定による教育組織の編制原理の明確化。
------	---

課題事項《箇条書き》 *伸長すべき点、改善すべき点

301①	「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」および「龍谷大学アセスメントプラン」に基づく教学マネジメントサイクルの確立
------	---

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない

301①	本学の教育活動における検証・改善のサイクルを確立すべく、「龍谷大学アセスメントプラン」を定め、学修成果・教育成果にかかる情報の把握・可視化を行い、適切に検証・改善するための指標とした。
------	--

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301①	「教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上の指針」および「龍谷大学アセスメントプラン」に基づく教学マネジメントサイクルの確立
301①	「3つの方針検証委員会」を中核とする「教育理念・目的」、「学位授与の方針」、「学生に保証する基本的な資質・能力」、「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」の継続的な見直し

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	a	龍谷大学の教育理念・目的 https://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html
301	b	龍谷大学学則/龍谷大学大学院学則
301	c	「学部・研究科の『教育理念・目的』と3つの方針（「学位授与の方針」「教育課程編成・実施の方針」「入学者受入れの方針」）策定の基本方針」 http://www.ryukoku.ac.jp/about/philosophy.html
301	d	「学生支援の方針（「修学支援の方針」「学生生活支援の方針」「キャリア支援の方針」）」（URL： http://www.ryukoku.ac.jp/campus_career/policy/index.html
301	e	「教育研究等環境の整備に関する方針」

II. 評価結果

総評
<p>本学の教育組織は、『龍谷大学の教育研究組織の編制原理』に基づき編成されている。また教育組織の環境整備は、『教育研究等に係る施設設備に関する整備方針』に基づき実施している（※「2 自己点検・評価」の5～8行目に該当）。</p> <p>各学部・研究科は、全学教学政策会議、教学会議又は大学院教学会議等の各種会議に委員を選出し、それらの会議において、学問の動向、社会的要請、又は大学を取り巻く国際的環境等の全学的課題について、審議や認識の共有等を図っている。</p> <p>以上、学部・研究科は、大学の理念・目的に即して適切に設置されていると評価できる。また学部・研究科の運営は、概ね学問の動向、社会的要請又は大学を取り巻く国際的環境等に配慮していると言える。</p>
長所・特色《箇条書き》
課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載

2022年度（対象年度：2021）自己点検・評価シート

基準3 教育研究組織

■事前確認

前年度の自己点検・評価シートから、伸長・改善計画、評価結果の課題事項（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】）を転記していますので、確認してください。

認証評価結果において、大学基準協会から指摘された事項について確認してください。

<前年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策（到達目標を含む）
301	現行制度「重点強化型研究推進事業」による成果創出と次期支援制度の原案作成

<前年度の評価結果（課題事項）>

課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載。該当がない場合は「なし」と記載。 ・犯罪学研究センターが、2021年度に予定通り外部評価を実施することが望まれる。【留意点】 ・世仏研センターが、今後、外部評価の結果に基づく伸長・改善に取り組むことが望まれる。【留意点】 ・2021年度は、基本構想400のアクションプラン達成に向け、ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の立案に向けた議論が進むことを期待する。また、あわせて重点強化型研究推進事業（現行制度）の成果創出が望まれる。【留意点】

<【参考】認証評価結果における指摘事項>

総評における助言 / 是正勧告 / 改善課題 なし

I. 自己点検・評価

1 自己点検・評価結果 < 評定 >

自己点検・評価基準を参照し、「自己評価」欄に「S」「A」「B」「C」の4段階で記入してください。

項目 No.	評価項目<大学基準協会の「点検・評価項目」に相当> 点検項目（評価の視点）<大学基準協会の「評価の視点」に相当>	自己評価 現状
301	大学の理念・目的に照らして、学部・研究科、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であるか。 ①大学の教育理念・目的と附置研究所、センター等の組織の適合性 ②研究組織と学問の動向、社会的要請、大学を取り巻く国際的環境等への配慮	A

2 自己点検・評価

対象年度における組織の状況を自己点検・評価し、その内容を、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて「点検項目」毎に具体的に説明してください。また、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために従来と異なる対応・対策を行った場合は、その取り組みがどのように点検項目を満たすのかについても併せて説明してください。

現状、「何を」規定又は実施していて、「いつ」「どの会議で（誰が）」「どのように（指標・方法）」検証・分析を行い、「どのように（基準）」自己評価していますか。
301① 学則第1条の目的を達成するため、学則第70条の規程に基づき、大学の附属施設として、4つの附置研究所および人間・科学・宗教総合研究センター（以下、「人間総研センター」という。）ならびに世界仏教文化研究センター（以下、「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している [301a]。 附置研究所は、本学の教育理念・目的に基づき編成された学部・研究科に応じて設置している [301b]。 人間総研センターは、本学が所有する研究資源を活かし、人間・科学・宗教に関連する高度な研究成果を国内外に発信し、本学が戦略的に行う研究を推進することを目的として設置している [301c]。 世仏研センターは、仏教を機軸とした国際的な研究拠点を形成し、学術研究の遂行を通じて現代社会の切実な

諸課題に応え得る指針を提示することによって、社会へ貢献することを目的として設置している [301d、301e]。これらの研究組織は、それぞれの目的を関係諸規程に定めている。また、その目的に照らし、それぞれの運営委員会等において、毎年度、研究活動の内容および進捗状況の報告に基づき点検・評価している。

個別の点検・評価としては、次のとおり行っている。

〔附置研究所〕

毎年度、研究活動の内容及び進捗状況の報告にもとづき点検・評価している [301f]。

〔人間総研センター・世仏研センター〕

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究プロジェクトについては、原則、各年度において予め定められた評価指標に基づき、事業進捗状況を確認している。2021年度は、10研究プロジェクトの事業進捗状況について評価を行い、うち2021年度で最終年度を迎えた3研究プロジェクトについては、総括としてヒアリングを踏まえた評価を行った。また、文部科学省私立大学研究ブランディング事業から継続実施している犯罪学研究センターの研究プロジェクトについては、コロナ禍の影響により主たる事業が2021年度に延期されたことに伴い、2021年度末に外部評価を予定通り実施した。[301g] [301g-1] [301g-2] [301g-3] [301g-4] [301g-5]

世仏研センターにおいても、各研究プロジェクトからの研究活動の内容及び進捗状況の報告に基づき点検・評価を行った[301h] [301h-1]。また、2021年度には、「宗教テキスト文化遺産アーカイヴス研究基盤」の展開において、基礎研究部門内に研究プロジェクト（研究分野横断的研究プロジェクト）を立ち上げた[301i、1] [301i-1]。また、応用研究部門に、ジェンダー、犯罪学、グローバル・アフェアーズの研究分野を設け、応用研究領域の拡大を図った。

301②

人間総研センターが所管する重点強化型研究推進事業採択研究センターをはじめとして11研究センターのプロジェクトを推進した [301a]。2021年度は、重点強化型研究推進事業採択研究センターの研究成果等を収載した人間総研センター研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」第2号を刊行した。本紀要は、国際水準のジャーナルとなることを目標とし、英文による執筆を推奨するとともに学内外の有識者による査読を行っている。また、国際性を担保するため国際的な論文識別子であるDOI (Digital Objects Identifier) を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開した[301j]。また、同紀要刊行に合わせて掲載論文等の内容を紹介し、研究センター間の相互の取り組みを情報共有する研究交流会を開催し、今後の研究センター間の連携の可能性についても議論した。

世仏研センターは、第5次長期計画の研究分野における新たな展開として、本学が積み重ねてきた仏教研究の実績を基礎にさらに発展的かつ国際的な研究拠点を形成することを目的として設立された [301e]。世仏研センターは、3つの部門（基礎研究部門、応用研究部門、国際研究部門）を軸に研究を推進している。

また、研究広報ウェブサイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者の特色ある研究内容を分かりやすく紹介している。[301k]

以上のことから大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織の設置状況は適切であると認識している。

長所・特色《箇条書き》*先駆性や独自性があるもの、有意な成果が見られるもの、他の組織の範となるもの、自己評価・現状「S」のもの	
301	国際ジャーナルを念頭に置いた研究紀要の刊行（査読付、電子化、英文執筆推奨、DOI付与）
301	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」の開設
課題事項《箇条書き》*伸長すべき点、改善すべき点	
301	現行制度「重点強化型研究推進事業」の総括と次期支援制度の原案作成

3 伸長・改善に向けた取り組み

前年度の自己点検・評価の評価結果（【改善勧告】、【努力課題】、【留意点】等）への対応も含め、伸長・改善に向けた取り組みについて、第三者が理解できるように、根拠資料を用いて具体的に説明してください。

<伸長・改善の進捗状況>

対象年度における取り組み *成果の有無を問わない、前年度の自己点検・評価シート作成時点での計画の有無を問わない	
・当初、2020年度に実施予定の犯罪学研究センター外部評価については、コロナ禍の影響により2021年度に実施した。	
・世仏研センターが、2020年度に実施した外部評価の結果への対応策の一つとして進めている、「宗教テキスト文化遺産アーカイヴス研究基盤」の展開については、基礎研究部門内に研究プロジェクト（研究分野横断的研究	

プロジェクト) を立ち上げた[301i、1]。

・重点強化型研究推進事業のプロジェクト 2022 年度及び 2023 年度募集及び 2024 年度以降の新たな研究プロジェクト支援制度の検討にかかる提案を行い、現行制度の総括を 2022 年度後期に行ったうえで、2024 年度から新制度を開始することとした。[301m]

<今年度の伸長・改善計画>

項目 No.	課題事項と伸長・改善方策 (到達目標を含む)
301	研究広報サイト Academic Doors での研究者及び研究内容紹介の充実
301	重点強化型研究推進事業の総括と次期支援制度の提案

4 根拠資料

項目 No.	根拠記号	根拠資料の名称
301	a	研究関連組織図
301	b	各附置研究所の規程
301	c	人間・科学・宗教総合研究センター規程
301	d	世界仏教文化研究センター規程
301	e	2014 年度第 15 回評議会(2015/2/26 開催)資料(抜粋)
301	f	各附置研究所の研究プロジェクトの評価要項
301	g	2021(令和3)年度第2回研究評価委員会議事録
301	g-1	重点強化型研究推進事業進捗状況の評価方法について
301	g-2	2021 年度重点強化型研究推進事業進捗状況の評価結果について(部局長会報告)
301	g-3	22-027a 2021 年度外部評価の結果について(通知)_犯罪学研究センター
301	g-4	22-027b 2021 年度外部評価フィードバックコメント_犯罪学研究センター
301	g-5	2021 年度第2回研究評価委員会議事録
301	h-1	第 4 回運営委員会での評価結果報告資料【抜粋】
301	h	世仏研センターの研究プロジェクトの評価要項
301	i	2021 年度第 11 回世界仏教文化研究センター運営委員会 (E-mail 審議) 議事録
301	i-1	2021 年度世界仏教文化研究センター第 11 回運営委員会提案資料【抜粋】
301	j	人間総研センター研究紀要 Ryukoku Journal of Peace and Sustainability
301	k	研究広報ウェブサイト「Academic Doors」
301	l	2021 年度第 11 回世界仏教文化研究センター運営委員会 資料抜粋
301	m	2021 年度第 2 回全学研究政策会議議事録

II. 評価結果

<p>総評</p> <p>大学の付属施設として、4つの附置研究所、人間・科学・宗教総合研究センター（以下「人間総研センター」という。）、世界仏教文化研究センター（以下「世仏研センター」という。）を設置し、研究活動を展開している。附置研究所、人間総研センター、世仏研センターは、毎年度、それぞれの研究活動及び進捗状況を点検・評価している。2021年度は、人間総研センターの10研究プロジェクトの事業進捗状況について評価を行った。その中の犯罪学研究センターについては、2020年度の実施が延期された外部評価も2021年度末に実施している。また世仏研センターは、2020年度研究プロジェクト（基礎研究部門、応用研究部門および国際研究部門）の事業進捗状況について評価を行った。</p> <p>また2021年度は、人間総研センターは研究成果等を収載した研究紀要「Ryukoku Journal of Peace and Sustainability」第2号を刊行している。同紀要は国際性を担保するため国際的な論文識別子であるDOI (Digital Objects Identifier) を付与し、オンラインジャーナルとして広く公開している。世仏研センターは「宗教テキスト文化遺産アーカイブス研究基盤」の基礎研究部門内に研究プロジェクト（研究分野横断的研究プロジェクト）を立ち上げた。その他、応用研究部門に、ジェンダー、犯罪学、グローバル・アフェアーズの研究分野を設け、応用研究領域の拡大を図っている。また新たに研究広報ウェブサイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者の特色ある研究内容を紹介している。同サイトが本学の研究内容に関する情報発信ページとして機能するよう定期的な更新が期待される。</p> <p>ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）は、2022年度から導入予定であったが、コロナ禍の影響を受け各プロジェクトの研究計画に遅れ等が生じ、2021年度に現行制度の総括を実施できなかった。このため導入時期が2024年度に延期され、総括は2022年度後期に実施することを予定している。なお、2022・2023年度は現行制度を踏襲しプロジェクト募集する。</p> <p>以上、大学の理念・目的に照らして、附置研究所、センターその他の組織は適切に設置し運営していると評価できる。ただし、コロナ禍の影響を受けポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の検討が進まず、導入時期が（2022年度から）2024年度に延期された。今後、2022年度中の現行制度の総括を含め、全学研究政策会議（2021年7月8日開催）での提案・承認のとおり実施されることが望まれる。</p>
<p>長所・特色《箇条書き》</p> <p>新たに研究広報ウェブサイト「Academic Doors」を開設し、本学研究者の特色ある研究内容を紹介している。同サイトが本学の研究内容に関する情報発信ページとして機能するよう定期的な更新が期待される。</p>
<p>課題事項《箇条書き》 *各項に【改善勧告】【努力課題】又は【留意点】を記載</p> <p>ポスト重点強化型研究推進事業（次期研究支援制度）の検討が進まず、導入時期が（2022年度から）2024年度に延期された。今後、2022年度中の現行制度の総括を含め、全学研究政策会議（2021年7月8日開催）での提案・承認のとおり実施されることが望まれる。【留意点】</p>